人気シリーズ 新刊本

ちくまプリマー新書（筑摩書房）より

『国境なき助産師が行く　難民救助の活動から見えてきたこと』　小島毬奈/著　Y495.9/コ
『創造するということ』　宇野重規/著　Y041/ウ
『幸福とは何か　思考実験で学ぶ倫理学入門』　森村進/著　Y150/モ
『小説は君のためにある　よくわかる文学案内』　藤谷治/著　Y901.3/フ
『歴史の読み方』　野家啓一/著　Y204/ノ
『あなただけの人生をどう生きるか　若い人たちに遺した言葉』　渡辺和子/著　Y159.7/ワ
『学ぶということ』　内田樹/著　Y002/ウ
『市場って何だろう　自立と依存の経済学』　松井彰彦/著　Y331.8/マ
『先生は教えてくれない就活のトリセツ』　田中研之輔/著　Y377.9/タ

なるにはBOOKS（ぺりかん社）より

『医学部』　浅野恵子/著　Y376.8/ア
『バイオ技術者・研究者になるには』　堀川晃菜/著　Y579.9/ホ
『臨床検査技師になるには』　岩間靖典/著　Y498.1/イ

ＹＡブックリスト第37号
平成30年11月発行
稲城市立中央図書館　稲城市向陽台4-6-18
電話：042-378-7111　FAX　：042-378-7162
https://www.library.inagi.tokyo.jp

稲城市立図書館　ヤングアダルト

BOOK LIST

VOL.37

～めくるめく古典の世界～

“古典作品＝古文の授業＝むずかしい”というイメージはありませんか？
普段見慣れない言葉は取っ付きにくいですよね。
しかし！物語の面白さは今も昔も変わりません！！
現代語訳版や絵本など、古典を読みやすくした本を集めてみました。

『紫の結び　源氏物語　一』
荻原規子（おぎわらのりこ）/訳　理論社　Y913.3/ム

光源氏と女性たちが繰り広げる大長編の『源氏物語』。源氏に見初（みそ）められる幼い「紫の上」を中心にすえ、構成を組み替えている作品です。
趣（おもむき）深さは残しつつも、長々とした解説はなく、物語として楽しめます。
教科書でしか読んだことがない方、挫折（ざせつ）した過去のある方も、こちらでしたら、『源氏物語』を味わえるのではないでしょうか。源氏と一緒に紫の上のかわいさの虜（とりこ）になりましょう。

『紫の結び　源氏物語　一～三』
荻原規子（おぎわらのりこ）/訳　理論社　Y913.3/ム
『源氏物語　つる花の結び　上下』
荻原規子（おぎわらのりこ）/訳　理論社　Y913.3/ム

源氏物語

娘をもつシングルマザーであった紫式部は、中宮彰子の家庭教師になりました。紫式部が『源氏物語』を通して何を伝えたかったのか？に焦点をあてた本です。平安も現代も生きる難しさは変わらない？

『源氏物語の教え
もし紫式部があなたの家庭教師だったら』
大塚ひかり/著　筑摩書房　Y913.3/オ

『日本文学全集０４　源氏物語　上』
池澤夏樹/個人編集　角田光代/訳
河出書房新社　918/イ

『じっくり見たい『源氏物語絵巻』』
佐野みどり/著　小学館　721.2/サ

『好かれる女・嫌われる女』
藤本勝義/著　新典社　913.3/フ

『だれが源氏物語絵巻を描いたのか』
皆本二三江/著　草思社　721.2/ミ

『香りの源氏物語』
嶋本静子/著 旬報社　913.3/シ

『紫式部の欲望』
酒井順子/著　集英社　913.3/サ

枕草子

『枕草子ＲＥＭＩＸ』
酒井順子/著　新潮社
914.3/サ

「春はあけぼの」のイメージから、風流な作品だと思ってませんか？実は『枕草子』はあるあるネタや、グチ、きっと共感できるつぶやきで溢れています。エッセイストである著者の的確な解説や、清少納言との対談（！）には、きっと吹き出してしまうはず。男子にはちょっとアクが強いかも…

『月の輪草子』
瀬戸内寂聴/著　講談社　913.6/セ

『はなとゆめ』　冲方丁/著
ＫＡＤＯＫＡＷＡ　913.6/ウ

『平安女子の楽しい！生活』
川村裕子/著　岩波書店　Y910.2/カ

作家による古典

『作家と楽しむ古典』　シリーズ
河出書房新社　910.2/イ

『作家と楽しむ古典
好色一代男　曾根崎心中
菅原伝授手習鑑　仮名手本忠臣蔵
春色梅児誉美』
島田雅彦・いとうせいこう・三浦しをん・松井今朝子・島本理生/著
河出書房新書

作家による古典講義、気になりませんか？『日本文学全集』の古典新訳を行った作家が、担当作品の解説を行います。古典を読み込んだ人たちだからこそ知っている面白さが伝わります。

『羅生門』芥川龍之介/作
松尾清貴/現代語訳
理論社　Y913.6/ア

誰もが一度は読んだことがあるでしょう芥川龍之介。今昔物語をモチーフにした『羅生門』等をさらに現代語訳したこちらの作品は、怪しい雰囲気そのままに、読みやすくなっています。解説付きで学べます。

『お伽草紙・新釈諸国噺』
太宰治/作　岩波書店　913.6/ダ

御伽草子

『鉢かづき「現代版」絵本御伽草子』
青山七恵/文　庄野ナホコ/絵　講談社　913.4/ゲ

ある日突然、鉢を被って生きていかねばならなくなる「鉢かづき」。あまりに哀れな主人公ですが、自棄になった彼女のセリフには意外と笑わせてもらえます。こちらのシリーズでは懐かしい昔話が、魅力的な現代語訳と美しいイラストで新しい作品として蘇っています。シリーズでぜひ。

「現代版」絵本御伽草子シリーズ
- 『象の草子』堀江敏幸/文　ＭＡＲＵＵ/絵
- 『木幡狐』藤野可織/文　水沢そら/絵
- 『はまぐりの草紙』橋本治/文　樋上公実子/絵
- 『うらしま』日和聡子/文　ヒグチユウコ/絵
- 『付喪神』町田康／文　石黒亜矢子／絵